

家庭での子どもの生活 (実態調査)

長 屋 美穂子

A Study on the Conditions of Children's Liveing at Home

Mihoko Nagaya

The purpose of this study is to reseach the condition of children's liveing at home.

The report is based on the questionnaire to the children's parents of an elementary school in Saitama prefecture.

The contents are as follows,

- | | | |
|----------------|-------------------|---------------------|
| 1. Diet life | 4. Private school | 7. Habit of life |
| 2. Time budget | 5. Play | 8. Health condition |
| 3. TV Watching | 6. Pocket money | |

In this study it is found that it is necessary to improve liveing of children's parents so as to bring up children sound.

I はじめに

通常、子どもに何か問題が生じると、その要因のひとつに“家庭”があげられ、注目されることが多い。

特にここ数年来子どもの問題としての、校内暴力・家庭内暴力・登校拒否などは、個々の特殊な例にとどまらず社会的にも拡大し、話題になっている。これらの原因は複雑多岐にわたるが、そのひとつとして基本的生活の乱れや親子関係などが考えられ、それらが“家庭”と密接なかかわりをもっているだけに、子どもにとって“家庭生活”が及ぼす影響は大きく、その責任は重大と思われる。これらに関する問題は、今までさまざまな観点から研究され、報告されているが、本稿は子どもたちがとくに“家庭”で、どのような生

活を営んでいるかに焦点をあてその状況を知るために、保護者を対象に行った子どもについての実態調査の結果の報告と、それに対する若干の考察である。

II 調査方法

対象 埼玉県下のあるマンモス小学校の 1・3・6年生871名で、回収された数は、

1年生	男子 129名	女子 130名
3年生	男子 147名	女子 142名
6年生	男子 143名	女子 165名

合計856名で、回収率は98.3%である。

時期及び回答者の内訳 1984年6月25日に小学校を通じて、子どもに調査用紙を家庭に持ち帰らせ、家族が記入し、同年6月27日に回収した。回答者は子どもの母親89%、父親6%、その他1%、無回答4%である。

家庭(家族)状況 家族構成は4人家族が59%で最も多く、次に5人家族が21%で、両親と子ども2~3人という構成の核家族である。祖父母と同居している、いわゆる三世代家族は全体の12%で、子ども8~9人に対して1人が同居していることになる。父親の職業は56%が会社員で最も多く、公務員22%、自営12%の順である。母親は55%が専業主婦で、何らかの職業を持っている人は、頻度はともかく1年生24%、3年生33%、6年生75%で、低学年より高学年の親に多い。親の出勤・帰宅時間について、父親の出勤は午前7時~9時前が多く64%で、帰宅は午後6時~9時前が多く56.9%である。なお出勤で5%、帰宅で13%の人が不規則な時間ということである。母親の場合、職業を持っている人の73%が午前8時~9時前に出勤し、帰宅は午後4時~6時前が多く59.5%である。不規則に出勤する人は4%、帰宅は5%いる。

Ⅲ 子どもの生活実態

- 実際行なった21の調査項目を、1.食生活
2.生活時間 3.テレビ視聴 4.塾・おけいごと
5.遊び 6.おこづかい 7.生活習慣
8.健康状態に分類し検討した。

1. 食生活

1-1 朝食の摂取(表1)

育ち盛りの子どもは、朝食をしっかりとっているかどうか、量はともかく摂取についてどうであろうか。毎日食べる・ほとんど毎日食べる子どもを含めると97.8%で、全く食べていない子どもは856名中1名で、いつも食べないという理由である。最近の子どもは、

表1 朝食の摂取 単位:人(%)

各学年男 内容 女別	1年男	1年女	3年男	3年女	6年男	6年女	合計
毎日食べる	116 (27.7)	121	141 (32.5)	137	127 (31.5)	143	785 (91.7)
ほとんど毎日食べる	8 (2.0)	9	4 (0.8)	3	9 (3.3)	19	52 (6.1)
時々食べる	4 (0.5)	0	2 (0.5)	2	7 (1.1)	3	18 (2.1)
食べない	1 (0.1)	0	0	0	0	0	1 (0.1)

朝食をぬくために精神的・肉体的・その他さまざまな障害が生じ問題になっているが、この調査校の1・3・6年生のほとんどの子どもは、毎朝食事をすませて登校しているようである。

1-2 朝・夕食の主食(表2)

どんなものを主食にしているであろうか。朝食では米を48.4%、パンを42.4%の子どもが主食とし、ほぼ2分されている。その他の9.1%の内訳は、米またはパン・クラッカー・小麦粉を使用した料理等があげられ、朝の食欲不振を少しでもカバーするためのくふうを感じる。夕食では98.9%の子どもが米を主食としていて、パン食は全くいない。その他0.8%の内訳は、めん類・おかずのみ等の回答である。朝食は米あるいはパン食、夕食は圧倒的に米食という結果である。

表2 朝・夕食の主食

各学年男 内容 女別	1年		3年		6年		合計
	男	女	男	女	男	女	
朝 食	米	58 (13.5)	57	75 (16.7)	68	68 (18.2)	88 (48.4)
	パン	53 (13.2)	60	63 (14.0)	57	64 (15.2)	66 (42.4)
	その他	18 (3.6)	13	9 (3.0)	17	10 (2.5)	11 (9.1)
	無回答	0	0	0	0	1 (0.1)	0 (0.1)
夕 食	米	127 (29.8)	128	147 (33.5)	140	142 (35.7)	163 (99.0)
	パン	0	0	0	0	0	0
	その他	1 (0.2)	1	0 (0.2)	2	1 (0.4)	2 (0.8)
	無回答	1 (0.2)	1	0	0	0	0 (0.2)

1-3 誰といっしょに食事をしているか(表3)

少人数の核家族・父親の長時間労働・共働き等の環境にあって、子どもはどんな状態で食事をしているであろうか。朝食では「家族の誰かといっしょに食事する」が46.5%、「家族全員で食事する」が40.2%であり差はないが、夕食では、「家族の誰かといっしょ」が64.3%、「家族全員」が32.8%で、朝と比較して家族全員揃うことが難しく減少している。原因のひとつとして親の帰宅時間が遅いこと・勤務時間の不規則さが考えられる。(Ⅱ,

表3 誰といっしょに食事をしているか

内容	各学年男女別		1年		3年		6年		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
朝	家族全員	50	48	67	53	58	68	344	
		(11.5)		(14.0)		(14.7)		(40.2)	
	家族の誰かといっしょ	61	67	59	74	67	70	398	
		(15.0)		(15.5)		(16.0)		(46.5)	
	子どもたちだけ	9	5	10	9	12	21	66	
	(1.6)		(2.2)		(3.9)		(7.7)		
食	1人だけ	8	10	11	6	6	6	47	
		(2.1)		(2.0)		(1.4)		(5.5)	
	無回答	1	0	0	0	0	0	1	
	(0.1)						(0.1)		
夕	家族全員	45	37	47	44	46	62	281	
		(9.6)		(10.6)		(12.6)		(32.8)	
	家族の誰かといっしょ	82	89	93	97	92	97	550	
		(20.0)		(22.2)		(22.1)		(64.3)	
	子どもたちだけ	0	3	2	1	4	3	13	
	(0.3)		(0.3)		(0.8)		(1.4)		
食	1人だけ	1	0	1	0	1	0	3	
		(0.1)		(0.1)		(0.1)		(0.4)	
	無回答	1	1	4	0	0	3	9	
	(0.2)		(0.5)		(0.3)		(1.1)		

○家庭状況参照) また朝食では、〔子どもたちだけ〕・〔1人だけ〕で食事する頻度が夕食に比べて高くなっている。次の表は〔子どもたちだけ〕〔1人だけ〕で食事すると回答した子どもの母親の職業有無を調べたもので、

	1年	3年	6年
朝	32 (30)	36 (34)	45 (38)
夕	4 (4)	4 (4)	8 (8)

() は母親が有職の場合を示す数字で、これからほとんどの母親が有職であることがわかる。要因のひとつとして母親の忙しさのため、子どもだけで食事をせざる得ないのではなからうかと思われる。

1-4 朝・夕食前の空腹度 (表4)

朝・夕食時中の様子 (表5)

朝食はぐっすり寝て、朝気持ちよく起床しなければ食べられないし、夕食は間食や運動量等で決まってしまうわけだが、食前と食時中の様子はどうかであろうか。まず食前の空腹度について、朝食では〔少しすいている〕が60.3%で最も多く、〔すいていない〕24.2%〔ペコペコにすいている〕15.3%であるが、夕食では項目順に〔ペコペコにすいている〕62%、〔少しすいている〕35.1%、〔すいていない〕1.8%という回答で、食前にペコペコ

表4 朝・夕食前の空腹度

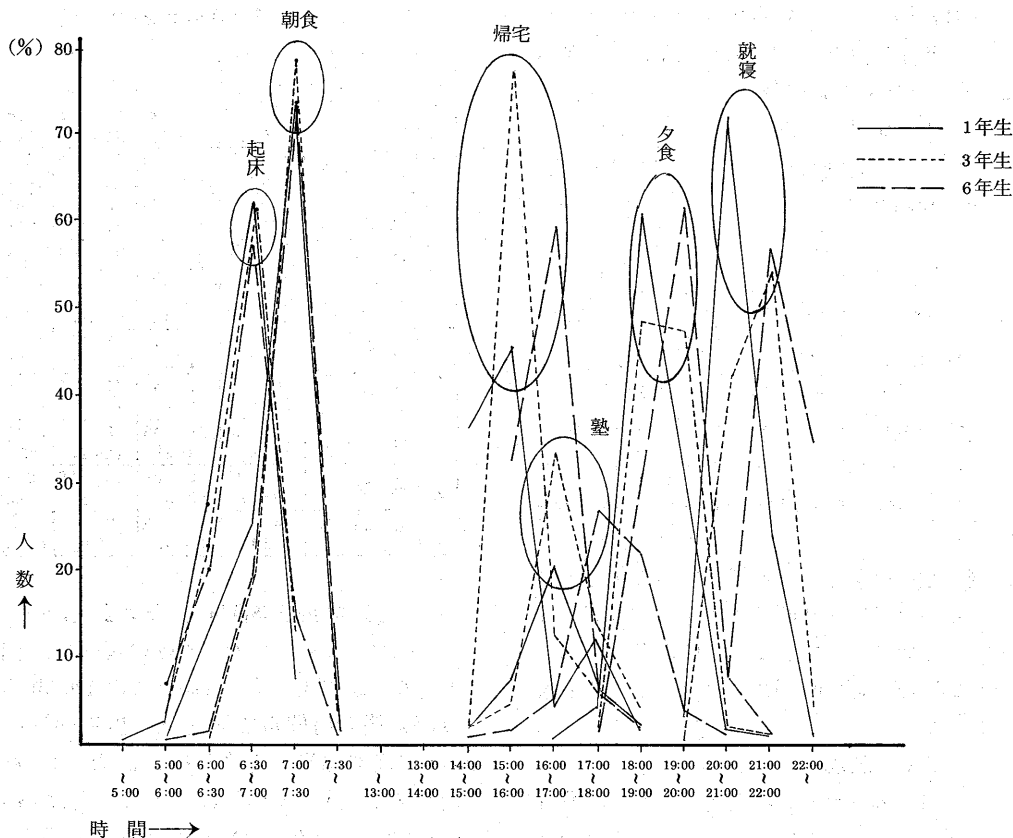
内容	各学年男女別		1年		3年		6年		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
朝	ペコペコにすいている	16	16	36	17	24	22	131	
		(3.7)		(6.2)		(5.4)		(15.3)	
	少しすいている	84	76	84	95	86	91	516	
		(18.7)		(20.9)		(20.7)		(60.3)	
	すいていない	29	38	27	30	32	51	207	
	(7.8)		(6.7)		(9.7)		(24.2)		
食	無回答	0	0	0	0	1	1	2	
						(0.2)		(0.2)	
	ペコペコにすいている	86	70	99	80	96	100	531	
	(18.2)		(20.9)		(22.9)		(62.0)		
夕	少しすいている	40	55	46	56	45	59	301	
		(11.1)		(11.9)		(12.1)		(35.1)	
	すいていない	3	5	0	4	0	3	15	
		(0.9)		(0.5)		(0.4)		(1.8)	
	無回答	0	0	2	2	2	3	9	
			(0.5)		(0.6)		(1.1)		

表5 朝・夕食中の様子

内容	各学年男女別		1年		3年		6年		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
朝	とってもおいしそう	16	8	30	18	27	26	125	
		(2.8)		(5.6)		(6.2)		(14.6)	
	おいしそう	90	94	103	102	106	95	590	
		(21.5)		(23.9)		(23.5)		(68.9)	
	つまらなそう	20	26	14	21	32	20	133	
	(5.4)		(4.1)		(6.1)		(15.6)		
食	全くつまらない	1	2	0	1	0	1	5	
		(0.4)		(0.1)		(0.1)		(0.6)	
	無回答	2	0	0	0	1	0	3	
	(0.2)				(0.1)		(0.3)		
夕	とってもおいしそう	50	36	55	48	74	67	330	
		(10.0)		(12.0)		(16.5)		(38.5)	
	おいしそう	73	86	89	85	78	70	481	
		(18.6)		(20.3)		(17.3)		(56.2)	
	つまらなそう	4	8	2	8	7	3	32	
	(1.4)		(1.2)		(1.2)		(3.8)		
食	全くつまらない	1	0	0	0	0	0	1	
		(0.1)						(0.1)	
	無回答	1	0	1	1	3	6	12	
	(0.1)		(0.2)		(1.1)		(1.4)		

にすいている人は朝食では57人に1人、夕食では14人に1人の割合で、夕食の方に空腹の比率が高い。

食事の様子について、朝食では〔おいしそうに食べる〕が68.9%で最も多く、〔つまらなそうに食べる〕15.6%、〔とってもおいしそうに食べる〕が14.6%で低率を示している。一方夕食では〔おいしそう〕が56.2%、〔とってもおいしそう〕が38.5%で朝食と比較してやや増加したものの、育ち盛りの子どもの食事風景とは思えない結果ではなからうか。食前に空腹ならば食事はおいしく食べられると考えるが、これは回答者の感じ方の相



グラフ1 生活時間

違で、間食の時間や量また食事量等の検討が必要かと思われる。

2. 生活時間 (グラフ1)

就寝、起床、朝食、帰宅、塾・おけいごと、夕食等の行動時間帯をみてみた。

注) ここでの生活時間とは、時間帯を設定し、該当するものを選択してもらった。

就寝について、1年生は20:00~21:00 (71%)、3年生は21:00~22:00 (53.6%)、6年生は21:00~22:00 (56.8%)が、最も多い時間帯であるが、6年生は22:00以降が34.3%で見落としできない数値と思われる。

起床については、3学年とも6:00~7:00の時間帯に集中し60%であるが、全体的に見て低学年より高学年の方が若干遅く起きる傾向が見られる。

朝食については、3学年とも7:00~7:30の時間帯に70%以上の子どもがすすませている。

ほとんどの子どもが6:00~7:00に起床し、6:30~7:30に朝食であるが、時間帯が接近しているように考えられる。就寝について低学年は20:00~21:00が多いのに対して、高学年になる程遅くなり、つまりは“遅寝・遅起・早食い”の傾向が見られる。

帰宅について、1年生は14:00~16:00に80%、3年生は15:00~16:00に77%、6年生は15:00~17:00に92%というのが最も多い時間帯である。これは各学年の授業時間上、この違いは仕方のないことである。平均からずれている時間帯の帰宅について言えば、低学年は学童保育、高学年は塾・おけいごとに行ってから帰宅することが考えられる。

塾・おけいごとで費やす時間について、1・3年生は16:00~17:00、6年生は17:00~19:00の時間帯が最も多いようである。(塾に関しては4. で詳しく述べる)

夕食について、1年生は18:00～19:00に60%、3年生は18:00～20:00に95%、6年生は19:00～20:00に61%で最も多く、低学年より高学年の方が徐々に遅くなっている。

頻度の高い時間帯を学年別に列挙すると、次のようになる。

	1 年 生	3 年 生	6 年 生
就 寝	20:00～21:00	21:00～22:00	21:00～22:00
起 床	6:30～7:00	6:30～7:00	6:30～7:00
朝 食	7:00～7:30	7:00～7:30	7:00～7:30
帰 宅	14:00～16:00	15:00～16:00	16:00～17:00
塾	16:00～17:00	16:00～17:00	17:00～19:00
夕 食	18:00～19:00	18:00～20:00	19:00～20:00

就寝・起床の関係から睡眠時間は1年生と3・6年生とでは1時間の差がある。6年生は塾・おけいごとで費やす時間が多いため、夕食が次第に遅い時間帯になるであろうと思われる。

3. テレビ視聴

今や日本人はテレビに明け、テレビに暮れる生活をしているといわれるくらい、テレビへの密着度が高く生活に及ぼす影響は大きいと思われる。特に子どものみるテレビ番組について何らかの規制が各地で行なわれているが、果たしてこの地域の実態はどうであろうか。

3-1 朝・夕食時のテレビ視聴(表6)

朝食時について頻度の高いものは「見ない」という回答で、1年生58.3%、3年生45.7%、6年生39.3%となっていて、高学年程見ているようである。夕食時では、1年生は「見ない」が33.6%で低率ではあるが最も多く、朝食時より一層値が低くなっていて、3年生は「時々見る」31.2%、「見ない」27.3%で朝食時と比較して逆転し、6年生は4項目がほぼ4等分された形になり、その中で高率なのは「毎日見る」27.9%である。朝食時より夕食時の方が時間的余裕と子どもの人気番組が放映されるためと思われる。

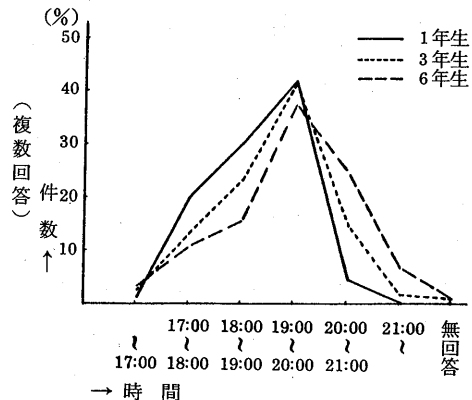
表6 朝・夕食時のテレビ視聴

内容	各学年男女別		1 年 生		3 年 生		6 年 生		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
朝	毎日見る	11	12	23	20	29	33	128	(14.9)
	ほとんど毎日見る	19	8	20	23	31	17	118	(13.8)
	時々見る	23	33	39	31	35	40	201	(23.5)
食	見ない	75	76	65	67	47	74	404	(47.2)
	無回答	1	1	0	1	1	1	5	(0.6)
	毎日見る	18	13	30	14	36	50	161	(18.8)
夕	ほとんど毎日見る	30	19	22	41	41	30	183	(21.4)
	時々見る	39	45	47	43	29	46	249	(29.1)
	見ない	39	48	41	38	28	36	230	(26.8)
食	無回答	3	5	7	6	9	3	33	(3.9)

3-2 視聴時間帯と時間量(グラフ2・表7)

時間帯については夕方だけの調査で、午後5時までと午後5時～9時までは1時間間隔、9時以降の時間帯で区切り、複数回答で行った。その結果、3学年とも19:00～20:00が最も多く、次に多いのは1・3年生は18:00～19:00、6年生は20:00～21:00で低学年より高学年の方が遅い時間帯に視聴している。

時間量について、高率のものをあげると1年生は〔1時間位〕38.2%、〔2時間位〕36.7%で、3年生は〔2時間位〕38.7%、〔1時間位〕33.6%で、あまり差はなく、1・3年生は1～2時間の視聴であるが、6年生は



グラフ2 テレビ視聴の時間帯

〔2時間位〕36.4%，〔3時間以上〕31.2%で、低学年と比較して大変視聴時間量が多い。

表7 テレビ視聴の時間量

各学年男 時間量 女別	1年男 女	3年男 女	6年男 女	合計
30分位	11 13 (9.3)	12 8 (6.9)	10 8 (5.8)	62 (7.2)
1時間位	44 55 (38.2)	41 56 (33.6)	30 49 (25.6)	275 (32.1)
2時間位	52 43 (36.7)	56 56 (38.7)	56 56 (36.4)	319 (37.3)
3時間以上	20 16 (13.9)	37 19 (19.4)	46 50 (31.2)	188 (22.0)
無回答	2 3 (1.9)	1 3 (1.4)	1 2 (1.0)	12 (1.4)

3-3 テレビ視聴に関する規制 (表8)

1・3年生はいずれも〔制限している〕が多く70%以上であるが、6年生は〔制限している〕56.8%，〔制限していない〕40.9%で大差は見られない。

表8 テレビ視聴に関する規制

各学年男 内容 女別	1年男 女	3年男 女	6年男 女	全体
制限している	89 94 (70.7)	104 100 (70.6)	74 101 (56.8)	562 (65.7)
制限していない	36 34 (27.0)	42 41 (28.7)	66 60 (40.9)	279 (32.6)
無回答	4 2 (2.3)	1 1 (0.7)	3 4 (2.3)	15 (1.7)

3-4 テレビ番組で主に視聴するものについて

1人3本までと限定し、具体的に述べてもらった。(表9・図1)

得られた回答は各学年男女別に分析した。子どもたちが最も多く視聴している番組5本を表9に、また放送形態別分類を図1にまとめた。3学年男女が述べた人気番組は圧倒的にアニメであり、特に低学年程多く、高学年になる程減少気味であり視聴するものがバラエティーに富んでいる。特に6年生の男子は報道・スポーツ番組、6年生の女子は歌謡曲・

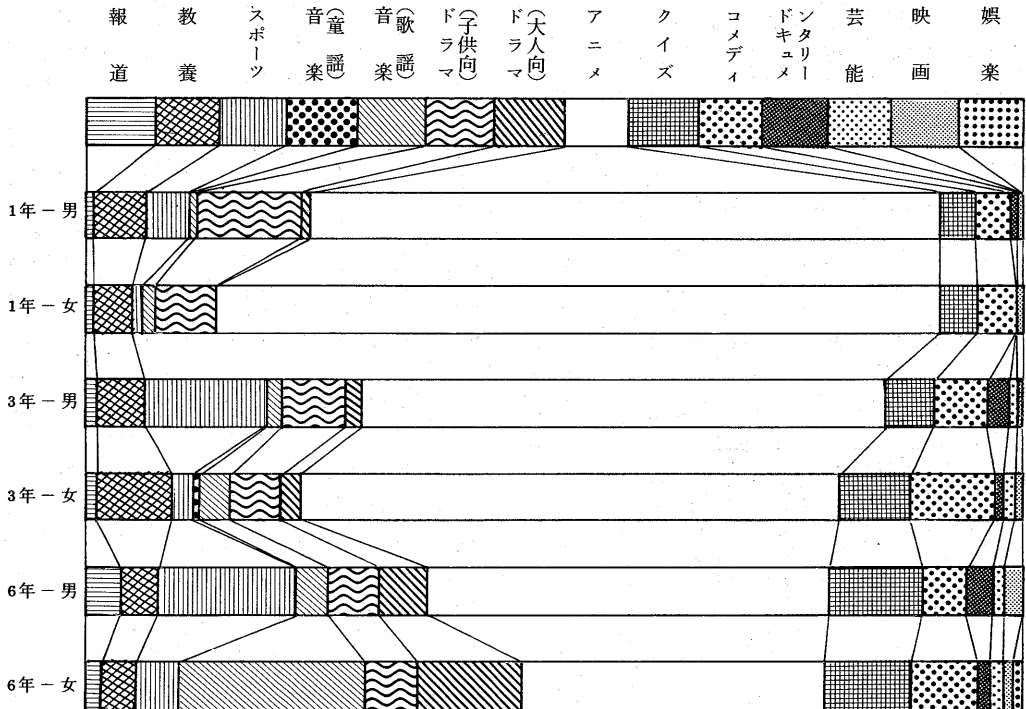


図1 人気番組の内容分析

表9 人気番組上位5本

学年 男女別 順位	1年		3年		6年	
	男	女	男	女	男	女
1	キン肉マン	パーマン	キン肉マン	パーマン	野球番組	ザ・ベストテン
2	パーマン	ハットリ君	野球番組	サザエさん	キャプテン翼	ザ・トップテン
3	ドラえもん	ドラえもん	パーマン	ドリフターズに関する番組	ニュース	欽ちゃんに関する番組
4	ハットリ君	牧場の少女カトリ	キャプテン翼	ハットリ君	キン肉マン	不良少女とおおぼて
5	キャプテン翼	キャンディキャンディ	ドラえもん	メモル	ドラえもん	キャプテン翼

大人向けのドラマを視聴しているようである。教養・子ども向けドラマの番組は、学年・男女に関係なく平均している。

4. 塾・おけいごと (表10, 11)

どのような塾・おけいごとをどの程度の子どもがやっているかを把握するために、やっている人はすべてのものを具体的に述べてもらった。子どもひとり通っている件数は表10、内容別分類を表11に示す。

全体的傾向として61%が、また男子より女子の方が、何らかの塾・おけいごとをやっているようである。学年・男女別に見て、頻度の高いのは3年生の女子71.2%で、逆に低いのは1年生の男子43.4%である。

内容別分類から学習塾が52.5%で最も多く、音楽22.1%、スポーツ19.3%、芸技3.6%の順である。さらに具体的に述べると、学習・そろばん・習字は高学年程多く、水泳は低学年の方が多し。男女別の違いが大きく見られるのはピアノで、各学年とも圧倒的に女子が多い。

表10 1人が通っている塾・おけいごとの件数

内容	1年		3年		6年		全体
	男	女	男	女	男	女	
全くやっていない	71 (55.0)	47 (36.1)	48 (32.6)	39 (27.4)	58 (40.6)	52 (31.5)	315 (36.8)
1件	38 (29.4)	48 (36.9)	49 (33.3)	43 (30.3)	48 (33.6)	56 (34.0)	282 (33.0)
2件	16 (12.4)	24 (18.5)	32 (21.8)	38 (26.8)	30 (20.9)	35 (21.2)	175 (20.4)
3件	1 (0.8)	9 (6.9)	5 (3.4)	18 (12.7)	6 (4.2)	19 (11.5)	58 (6.8)
4件	1 (0.8)	1 (0.8)	2 (1.4)	1 (0.7)	1 (0.7)	2 (1.2)	8 (0.9)
5件	0	0	0	1 (0.7)	0	0	1 (0.1)
無回答	2 (1.6)	1 (0.8)	11 (7.5)	2 (1.4)	0	1 (0.6)	17 (2.0)

表11 塾・おけいごとの種類

内容	各学年 男女別		1年		3年		6年		全体
	男	女	男	女	男	女	男	女	
学 習	学 習				3	2	26	20	468 (52.5)
	英 語	5	2	7	4	22	18		
	公 文	5	3	19	13	9	5		
	そ ろ ば ん		2	29	28	29	46		
音 楽	習 字	12	19	28	47	15	50		
	ピ ア ノ	8	41	7	37	4	38	197 (22.1)	
	エレクトーン	3	11	2	20	1	13		
	バイオリン	2	1	1			1		
フルート			1			1			
芸 技	ビ.ッ.コ.ロ.琴	1						1	
	絵 画	2	7	3			1	32 (3.6)	
	茶 道	1				1			
	華 道					1			
日 本 舞 踊		2		2					
ス ポ ー ツ	バ レ エ	7			5				
	水 泳	38	33	25	24	15	7	172 (19.3)	
	剣 道	1	1	8	2	4			
	柔 道	2							
	空 手	2		2		1			
	少 林 寺 拳 法	2	1						
テ ニ ス					1	1	2		
具 体 的 に 述 べ て い な い 各 学 年 男 女 別 計	2		3	8	2	7	22 (2.5)		
合 計	86	130	138	197	130	210	891 (100.0)		

5. 遊 び (表12)

遊びは創造力・運動能力や体力を養い、発達させていく上で重要なことであるが、果たして子どもたちにはどのような遊びが多いだろうか。表12に示した遊びの中から3つ以内に限定し選択してもらった。合計2,170の回答があり、1人当たり2.5の遊びが述べられたが、なかには「遊ばない」・「遊ぶ時間がない」という子どもが全体の7.7%いることは、見

逃せない数値であると思われる。男女差の見られる遊びは、男子は野球・キャッチボール・サッカー等のスポーツ、またプラモデル作りが多く、女子ではなわとび・バトミントンで、特に低学年ではままごと遊びが多く、まだ幼児性が残っているように思われる。男女共通している遊びは、ゲーム・ドッチボールである。その他の内訳は、1年生男子はキン肉マン消しゴム収集・絵かき、女子は絵かき・折紙、3年生男子はマンガ本読み、女子は絵かき・折紙、6年生男子はマンガ本読み、女子は手芸・編物・マンガ本読み等で、遊びに含まれるかどうか疑問なものもあるが、“室内の遊び”を多く述べている。

表12 遊びの内容

種類	各学年男女別		1年		3年		6年		全体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
野球	36	0	56	1	70	3	162	4		
キャッチボール	45	4	81	13	71	19	197	36		
かくれんぼ	27	47	8	27	2	11	37	85		
ゲーム	32	15	36	43	28	31	96	89		
ままごと	4	86	0	41	0	7	4	134		
プラモデル作り	26	0	44	0	40	0	110	0		
なわとび	10	63	8	70	3	24	21	157		
ドッチボール	24	13	50	40	39	49	113	102		
スベリ台	18	39	5	26	0	4	23	69		
ぶらんこ	0	9	0	15	0	8	0	32		
ゴムとび	5	13	3	35	1	47	9	95		
バトミントン	15	4	24	9	28	11	67	24		
テレビゲーム	59	6	56	4	69	5	184	15		
その他	53	42	26	53	16	49	95	144		
遊ばない	0	0	1	1	2	23	3	24		
遊ぶ時間なし	2	1	0	7	5	24	7	32		
無回答	0	1	0	0	0	6	0	1		

6. おこづかい (表13)

おこづかいをあげている人は金額を述べてもらい、無回答の場合はあげていないと考慮した。

表13から、低学年より高学年、女子より男子の方がもらっていて、与え方の方法としては、各学年・男女とも1ヶ月毎が最も多く、1週間毎・毎日の順である。金額については6年生が最も多く1ヶ月毎に1,000円程度、3年生は1ヶ月毎に500円程度で、半減して

表13 おこづかいの内容分析

内容	各学年男女別		1年		3年		6年		全体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
毎 日	~ 50円		4	1		3	2		10	
	~ 100		4	2	4	5	8	1	24	
	~ 200						1		1	
	~ 300				1		1		2	
一 週 間 毎	~ 50円					2			2	
	~ 100		16	3	16	1	2	1	39	
	~ 200		1	6	7	5	6	1	26	
	~ 300			2	4	8	1	1	16	
	~ 400					1	2		3	
十 日 毎	~ 500		1	1				1	3	
	100円		1	1	2				4	
	300		1			1			2	
	500						1		1	
	~ 100円		4	2					6	
一 ヶ 月 毎	~ 200		5	2	3	3			13	
	~ 300		3	3	21	16		6	49	
	~ 600		3	6	20	28	23	44	124	
	~ 800				5	3	15	13	36	
	~ 1,000			1	8	9	42	40	100	
	~ 1,200					2	3	6	11	
	~ 1,400						1	3	4	
	~ 1,600		5		1	1	11	11	29	
	~ 1,800								0	
	~ 2,000						1	7	6	
そ の 他	~ 3,000							2	2	
	必 要 に て い い 時 強 時 で お ま か な う		14	7	17	8	3	10	59	
	手 伝 い た 勉 強 時 で お ま か な う		1		1	1			3	
	お ま か な う			1		1		1	1	
無 回 答			66	91	31	47	13	16	264	
			(51.3)	(70.0)	(21.1)	(33.1)	(9.1)	(9.7)	(30.8)	

いる。1年生は全体的に見て低率で、しいて述べるならば1週間毎に100円程度、または必要に応じて与えられているようである。

7. 生活習慣

生活の基本的なことがらについて自分でやっているだろうか。

7-1 起床について次に示す4項目から該当するものを選択してもらった。

- 1) 1人で起床する
- 2) 家族の誰かに起こしてもらう
- 3) 目覚まし時計を利用する
- 4) その他

結果として学年・男女差は見られない。1人で起床する子どもは31%と約3分の1であり、残りの70%の子どもは家族とか目覚まし時計等の力を借りて起床している。全体的傾向から高学年より低学年の方が1人で起床できる率が高い。

7-2 歯みがきについて次に示す6項目から該当するものを選択してもらった。

- 1) 朝だけ
- 2) 朝・夜
- 3) 朝・昼・夜
- 4) 夜だけ
- 5) 決まっていない
- 6) 全くみがかない

〔朝・夜〕みがく子どもが67.5%で最も多く、〔夜だけ〕14.1%、〔朝だけ〕11.1%、〔決まっていない〕4.7%の順である。特に〔朝だけ〕みがく子どもは高学年に多く、〔夜だけ〕みがく子どもは低学年の方が多い。

7-3 排便について次に示す4項目から該当するものを選択してもらった。

- 1) 朝する
- 2) 学校でする
- 3) 帰宅後する
- 4) 決まっていない

〔朝する〕が51.2%で最も多く、女子より男子の方が若干多い。〔決まっていない〕つまり不規則な子どもは29%で、特に6年生の女子に多いようである。学校でする子どもは少なく、たいていの子どもは家庭ですませているように思われる。

7-4 家事手伝いとして次の6項目についてどの程度やっているかを述べてもらった。

- 1) 朝食の準備・かたづけ
- 2) 夕食の準備・かたづけ
- 3) 衣類の整理・整頓
- 4) 部屋の整理・整頓

5) 買い物・おつかい

6) 留守番

結果として、学年・男女差はあまり見られない。〔朝食の準備・かたづけ〕はしないという子どもが多いが、夕食時の場合は時々するという回答の方が多い。〔部屋の整理・整頓〕〔買い物・おつかい〕〔留守番〕については、時々する子どもは約70%いるが、〔衣類の整理・整頓〕は時々する39%、しない38%で半々の割合である。設定した数少ない項目の中で比較的手伝うのは、〔買い物・おつかい〕〔留守番〕のようである。

8. 健康状態

最近の子どもは、発育の状態は良いが、体力が低下しているといわれ、健康の側面をみてみた。

8-1 現在、病気・けがで通院している子どもは、病名を具体的に述べてもらい表14にまとめた。

体に何らかの異常があって通院している子どもは全体で88人、10.3%に相当し、病気・けがの治療中である。高学年より低学年の方が若干多く、特に耳鼻科・内科系統の疾患である。

表14 通院の内容分析

内容	1 年 男 女		3 年 男 女		6 年 男 女		全体
	男	女	男	女	男	女	
内 科	4	5	3	4		3	19
耳 鼻 科	9	7	3	3	3	1	26
外 科	1	2	2	2	3	1	11
眼 科	1	2	2	3	2	1	11
皮 膚 科	5	1	2	1		5	14
精 神 科				1			1
歯 科			1	2	2	1	6
難 病	1	1					2
具体的に述べていない		1		1	1	1	4
各学年・男女別合計数	21	19	13	17	11	13	94

8-2 心身の健康状態に関して次の12項目について有無を述べてもらった。

- 1) 胃の調子がおかしい
- 2) 頭が痛くなりやすい
- 3) 食事がおいしく食べられない
- 4) 体がだるくなりやすい

- 5) 元気がでない
- 6) 便秘しやすい
- 7) 下痢しやすい
- 8) めまいしやすい
- 9) 風邪をひきやすい
- 10) 夜よく眠れない
- 11) 手・足がしびれたり、重い感じがする
- 12) 心臓がドキドキしやすい

全体的傾向から多くみられるもの3つをあげると、①風邪をひきやすい21.1%，②頭がいたくなりやすい12.7%，③食事がおいしく食べられない10.7%である。男女差はあまり見られないが学年差があり、特に高学年に多く見られるものとして、頭が痛くなりやすい・体がだるくなりやすい・元気がでない・夜よく眠れない等があげられる。またこれらの項目中全く異常を示さなかったものは、〔めまいについて〕で1年生男女共に〔しない〕と答えている。

Ⅳ ま と め

この調査の回答から得た家庭での生活についての現状をいまいちど、カテゴリー別にその特徴を述べると次のようになる。

◇食生活

朝食はたいいの子どもがほとんど毎日とっていて、朝食の主食は米とパンが半々で、夕食の場合は米である。家族全員揃って食事することは難しく、家族の誰かといっしょの場合が多い。食前の空腹感について、朝食では少しすいている、夕食の場合はペコペコにすいている子どもが多い。

◇生活時間（就寝・起床・朝食・帰宅・塾・夕食）

起床と朝食は3学年とも同じ時間帯であるが、若干高学年の方が遅い傾向にある。他の内容に関しては、明らかに高学年の方が遅い時間帯を示している。

◇テレビ視聴

食事時のテレビ視聴について、朝食時では見ない子どもが多かったが、夕食時では視聴が高くなり、高学年程度が高い。視聴時間

帯は3学年とも19:00～20:00が多く70%以上を示し、視聴時間は1・3年生は1～2時間、6年生は2～3時間である。テレビ視聴に関して制限されているのは低学年の方が多い。子どもの人気番組は全体的にアニメであり、高学年程度視聴するものがバラエティに富んでいる。

◇塾・おけいごと

全体の約70%の子どもが何らかの塾・おけいごとに通っているが、男子より女子の方が頻度が高い。学年・男女別では、3年生の女子が最も多く、少ないのは1年生の男子である。具体的に述べると学習・スポーツ・音楽・芸技の順に多くなっている。

◇遊び

男子は野球・キャッチボール・サッカー・プラモデル作り、女子ではなわとび・バドミントン、特に低学年はままごと遊びが多く、共通している遊びはゲーム・ドッチボールである。また遊ばない・遊ぶ時間のない子どもが7.7%いた。

◇おこづかい

低学年より高学年、女子より男子の方がもらっていて、6年生は1ヶ月毎に1,000円程度、3年生は1ヶ月毎に500円程度、1年生は低率で、しいて述べるならば1週間毎に100円程度である。

◇生活習慣

起床については家族とか目覚まし時計等によって起きる子どもが多く、1人で起床できる子どもは全体の3分の1である。歯みがきは朝・夜みがく子どもが67.5%で最も多く、排便については朝すませる子どもは約半数、なお不規則な子どもは3分の1である。家事手伝いでは“しない”の回答が多く、比較的手伝うのは買い物・おつかい・留守番である。

◇健康状態

現在、病気・けがで通院し治療中の子どもは、全体で10.3%いて、主に耳鼻科・内科系の疾患のようである。健康状態として特に風邪をひきやすい・頭が痛くなりやすい・食事がおいしく食べられない等があげられた。

さらに総合的観点から述べると、朝食の摂取については問題ないと考えられるが、起床と朝食時間が接近しているため、おいしく多くの量が食べられないのではなからうかと思われる。

朝食時はもとより特に夕食時においてテレビ視聴が多く、家族全員揃って食事すると回答のあったほとんどの家族が食事中にテレビ視聴というなげない結果がでている。親の共働きや勤務時間の関係上、家族全員揃うことは大変貴重なことだと思われるが、これではテレビによってまさに骨抜き的一家団らんではなからうか。なおテレビに関して、回答者の積極的な意見が述べられ、規制したいが子どもに負けてしまうとか子どもが見るのでいっしょに見る等述べられている。また、子どもの人気番組が夕食の時間帯と重なっていることは最大の弱点とも言える。従来、テレビは子どもの生活様式を変えてしまったと言われている。児童雑誌・書籍などにある物語や童話等を再編成してしまい教育上マイナスであるが、もちろんプラス面もあり、テレビに振りまわされるのではなく、テレビを利用する生活に変えて欲しいものである。長期・継続的なテレビ視聴が少なくとも精神的・肉体的に何らかの影響を与えることは考えられる。子どもの欲求を規制するのは保護者の責任であり、その権限を確認した上で、積極的な態度が必要ではなからうかと思われる。

遊びでは「スポーツ」が盛んであるが、その他の自由回答で「室内の遊び」の多い点が注目される。また「遊ばない」「遊ぶ時間がない」という子どもが7.7%いることは無視できない数値であり、理由として塾・おけいこごとからの束縛・テレビ視聴等のほかに遊べるような環境が少ない状況も考えられる。子どもはおもしろいから遊ぶと思うが、結果的には体力・運動能力を身につけ、遊びを通して人間関係の処理の仕方・社会性を学び、知的能力も発達すると言われているので遊びは大切ではなからうか。

生活習慣として1人で起床できる子どもは

非常に少なく、就寝時刻が遅いから当然のように朝が弱く夜型になってしまう。また歯みがき・排便等の規則正しい習慣づけも徹底されてなく、簡単な家事手伝いをやっている子どもも少ないようで、全体的に自立の程度が低いように思われる。「日本の子どもたち」生活と意識、NHK放送世論調査(1981)によると、この傾向は都市部や核家族の家庭にみられる過保護が原因で、それが子どもの生活面で自立を妨げていると述べられている。

この調査から、「テレビ過剰・遅寝・遅起き・早食い・自立欠如」というひとつの傾向をみたような気がする。低学年より高学年の方に多くみられる。これに類似する調査は全国的によくなされているわけであるが、今回も全く一般的な結果がでたようである。

今年(1984)は特に、「いじめっ子、いじめられっ子」問題がクローズアップされ、文部省はいじめの背景として、①核家族化や兄弟の少ない少子化、近所付き合いの薄さ、父母の過保護などから対人関係が未熟になりがち、②テレビなどで刺激的な情報が増えるうちに、父母の過剰な期待が加わり、欲求不満をつのらせている、③塾通いなどで友人と遊ぶ機会が少なく、ストレスを解消する手段が乏しくなっている、など挙げている。

読売新聞1984.4.24(火)朝刊によれば「いじめ、家庭映す鏡(親も学校に甘え過ぎ)」との見出しで、家庭に原因となるべきものがあると述べ、親の関心をひいている。

今回の調査校にこのような問題が現在発生していなくても、文部省の打ち出した背景の中に多少の要因が含まれていて、全く無関係とはいいい切れず、また必ず最悪の状態になるともいえない。これを論ずるには資料不足で探求が必要である。

要するに本来の子どもの生活をとりもどすには、まず基本的な生活習慣を身につけ、誰もがよく知っている「よく食べ・よく遊び・よく学ぶ」そしてよく睡眠をとれば、少なくとも子どもの生活は変わるであろう。

健全な子どもの成長を促進するには、いまい

ちど、保護者が姿勢を正し、子どもたちの生活はもとより、大人の生活の点検も必要かと思われる。

〔付 記〕

調査実施にあたり、ご協力戴きました教育委員会、小学校の教職員や保護者の皆様に感謝致します。

参 考 文 献

- 1) 祐宗省三編 「子どもの社会心理（家庭）」
金子書房 1983
- 2) 磯貝芳郎編 「子どもの社会心理（社会）」
金子書房 1983
- 3) 藤田和也編著 「子どもの生活をどうたて直すか」 あゆみ出版 1983
- 4) 一香ヶ瀬康子著 「現代の子どもと人権」
ドメス出版 1981
- 5) 斉藤賢治著 「統計にみる子どもの生活とリズム」 あゆみ出版 1983
- 6) 大槻 健他著 「現代の子どもをどうつかむか」 あゆみ出版 1983
- 7) 藤原義隆著 「子どもの生活リズムをつくる」
あゆみ出版 1983
- 8) NHK放送世論調査所編 「家族とテレビ」
日本放送出版協会 1982

(1984年9月25日受付)